**2020年度　聖隷こども園ひかりの子　自己評価　結果**

【聖隷こども園ひかりの子　教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指します。

　＊愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。

　＊一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。

　＊自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

　＊在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てできるように支援する。

聖隷こども園ひかりの子では、「保育者のための自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と

園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行いました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の質の向上のため、次年度の取り組みにつなげていきたいと思います。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 自己評価結果・課題 |
| 1. 総則 2. 教育及び保育の基本と目標 3. 特に配慮すべき事項 4. 教育及び保育の配慮 5. 健康支援 6. 食育 7. 特別支援教育・障害児保育 | ・全体的に、「理解している」と回答できる一方で「説明できるか」ということについては自信のない職員が多い。自分の言葉で説明できるための学びを深めていくことが必要。  ・自己評価をしたことで、子どもへの関わり（教育及び保育の配慮）について振り返るきっかけになった職員が多かった。職員間で視点が共有できたため、互いに問題意識をもち、子どもに向き合っていくようにする。  ・食育に対しては、給食担当者と保育者との連携をとることができており、給食担当者も積極的に子どもの食に関わっていると感じる。継続していく。 |
| 第2章　子どもの発達 | ・園目標と通ずる項目が多いことを職員間で再確認した。個々の発達を丁寧に捉え、主体的に生活できる環境構成や遊びの展開を考えていくことの必要性を感じている。 |
| 第3章「ねらい」及び「内容」  1．保育内容「健康」  2．保育内容「人間関係」  3．保育内容「環境」  4．保育内容「言葉」  5．保育内容「表現」 | ・人（高齢者・地域）との関わりに於いては、コロナ禍で制限があり、できなかったが、現状の中でできることを考えていきたい。  ・「表現」については、全体的に評価が低い。今年度は職員がグループに分かれ、絵画や音楽について、学びを深める取り組みを進めてきたため、次年度も継続していく。 |
| 第4章　低月齢児の保育実施上の配慮事項  1．乳児期の保育に関する配慮事項  2．満1歳以上～満3歳未満児の保育に  関する配慮事項 | ・マニュアルや看護師の指導を基に、行動としてできている部分は多いが、環境設定や関わり方としてはもう少し見直しができる部分もあるかと振り返った。  ・月齢によるグループ分け、クラス分けをしていることによって、子どもの発達に応じた保育の展開はできやすい。 |
| 第5章　指導計画作成に当たって配慮  すべき事項 | ・「全体的な計画・教育課程」については、園全体で共有してはいるものの、十分な理解・把握に至っていないことも事実である。日々の保育につながるような活かし方を検討していく必要がある。 |
| 第6章　研修と自己評価 | ・コロナ禍で研修の機会は激減した。1年間の後半はオンライン研修の機会が与えられ、少しずつ職員もそれに慣れてきたところである。  ・園内研修の実施の仕方については、より有効なものとなるよう、工夫が必要だと感じている。 |
| 第7章　子育て支援 | ・園の保護者に対しては身近に支援ができ、また職員が互いに意識していることでもあるが、地域に対してとなると難しさも感じている。  ・特に経験の少ない職員は、外部の関係機関との関わりについて、把握できていないこともあり、会議や勉強会の折に確認していくことの必要性も感じた。 |

＜総評＞

・園目標をもとに、子どもの安心できる環境を整え、一人ひとりを尊重した関わりをしたい。子どもも大人ものびのびと毎日を過ごしたい。との職員間での思いの共有ができた。実践に結びつけていくために、具体的にどのようなことに取り組むかを見直し、継続して取り組んでいく。

・コロナ感染症の広がりにより、保育や行事を見直す機会が与えられ、良い作用をもたらした要素も多分にある。今後も感染対策をし、保護者の理解も得ながら、子どもが尊重される保育・教育を考えていく。

・保育の質の向上について、自己研鑚や園内研修の必要性も確認できた。現状を見直し、より効果的な方法を検討して、取り組んでいく。